

スペースリー リフォーム後をVRで提案 プレゼン、より効果的に

スペースリー(東京都渋谷区)は4月17日、リフォーム後のイメージをVRで体感できるサービスを始めた。サービス開始にあたり3Dパース制作ツールなどを開発・販売する安心計画(福岡県福岡市)と事業提携。安心計画のツールで作ったリフォーム後の3D空間データをVRコンテンツに変換できるようにし、改修後の空間を仮想現実で提案できる。

スペースリーの森田博和社長は「プレゼンの場で活用してほしい。より分かりやすく提案できるようになる」と話す。

VRコンテンツはURLを生成でき、見込み客にメールして閲覧してもらうことも可。閲覧データを収集し、見込み客が



森田博和社長



▲リフォーム後をVRで提案できるサービス

どのデザインやどの部位が気になっているか、閲覧時間などから好みなどを把握し、営業に活用できるよ

うにするように機能の実装も検討している。スペースリーは4月以前までエフマイナーという社名で営業

貸貸や売買などを手掛ける不動産事業者向けに360度画像やVRコンテンツを作るシステムの開発・販売を手掛けてきた。2016年に事業開始し、現在約650社がサービスを利用。月額1万2980円からという低価格と、画質や画像処理の技術を武器に成長してきた。

最も多いのが、賃貸物件紹介サイトで物件の写真や360度画像・VR化するケース。リノベ

み物件の紹介サイトでは、静止画からVRに切り替えたところ反響率が2倍になったという。

「VRは分かりやすいと不動産業界で浸透し始めてきています。リフォーム業界、事業者の方にも魅力的な使い方を提案して利用者を増やしていきたい」と森田社長。

同社は4月10日にベンチャーキャピタルなどから約1億円の資金調達を実施、さらなるサービス拡大を目指す。